

海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	國府田 華子 印
所属機関	国立国際医療研究センター 外科
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 	European Society for Diseases of Esophagus 2019
渡航期間	自 2019年11月20日 至 2019年11月24日
<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容 ・国際学会・会議内容 	ヨーロッパ食道病学会における口頭発表 E-cadherin expression correlates with progression of Esophageal Squamous Cell Carcinoma
研究成果 （ 要約：800字 ）	
<p>私は、2019年11月20日から23日までギリシャ アテネで開催された European Society for Diseases of Esophagus 2019 に参加し、口頭発表を行いました。内容は、正常上皮細胞における細胞間接着・分化に重要な役割を担うとされる E-カドヘリンの発現を、食道扁平上皮癌において新規に検討したものであり、E-カドヘリンの発現様式に着目することで、“細胞膜からの消失”が、食道扁平上皮癌の進行において重要な役割を担っていることを見出したものです。E-cadherin の機能は未解明な部分が多く、密に研究されている分野の1つです。本学会でも、食道腺癌における TGF-beta1 および TGF-beta2 と E-cadherin の関与についての研究発表がなされていました。欧米では食道腺癌が主流ですが、日本を初めとしたアジア諸国では未だ扁平上皮癌が主流であり、最新の知見を組織型で対比して吟味することが出来、今後の研究応用へのヒントが得られたと感じております。</p> <p>今学会はヨーロッパを中心に世界各国から食道領域において第一線で活躍するエキスパートが集う学会であり、最先端の研究に関する発表が多くなされていました。食道癌の術式に関する臨床的な内容から、バレット食道での異形成や腺癌への進行を予測する分子マーカーに関する基礎研究まで広く最新の知見を学ぶことができました。また、臨床研究に関しては、ヨーロッパを中心とした各国のデータを集積し解析した内容が多くあり、諸外国のデータベースの規模の大きさに感銘を受けました。</p> <p>今学会の参加を通して、同じ領域で研究をされているエキスパートの講演の聴講、ポスターの閲覧により、今後の研究応用に関して多くのヒントを得ることができました。研究者としての経験が浅い分、世界各国の最新の研究に触れ、研究における考え方や手法、分析方法等を学ぶことができたのは、大変貴重な財産となりました。今回の学会参加で得た経験を今後の研究にも活かし、癌研究の進歩の一端を担っていきたいと考えております。</p> <p>この度は誠にありがとうございました。</p>	

